



## 2. 関西支部イベント「ぶら・土木 26th」の視察・意見交換

前項の議論より、若手技術者の交流を目指す事業で継続的に開催されている関西支部の「ぶら・土木」の事例があることを把握し、視察し意見交換を行うことと

|                               |
|-------------------------------|
| 日時：2018年12月12日（水） 14:00～16:00 |
| 場所：阪神甲子園球場ほか                  |
| 参加者：松浦正典（北海道支部活性化WGリーダー）      |

とした。同行事は『つながる、伝える、育てる、育つ』をキーワードに、若手土木技術者の交流と技術力の向上を目的として活動する土木学会関西支部の分会（ブランチ）である。視察した第26回は、甲子園球場の整備を通じて土木の維持管理を知ることがテーマであった。参加者約30名は親子連れ、現役や退職後の方などさまざまであるが女性の比率が高いことが印象的であった。リピーターも数名おり根強い人気を実感した。同行事は代表幹事を交代して年間に複数回開催されるが、支部事務局および幹事団が主体的に企画するなど実施体制は整備されている。視察参加者は今後の北海道支部における活動へのヒントを、(A)土木学会が主催の強みを最大限に発揮して、一般には体験できないスペシャル感を持たせる、(B)イベントの規模は大きくなくとも、細かくテーマを分け、繰り返して開催する、(C)地域の特色を最大限に活かした、しかし身近なキーワードを設定する、(D)より細やかで魅力的な活動を展開するためには、支部事務局と幹事の連携が重要である、の4点と報告した。

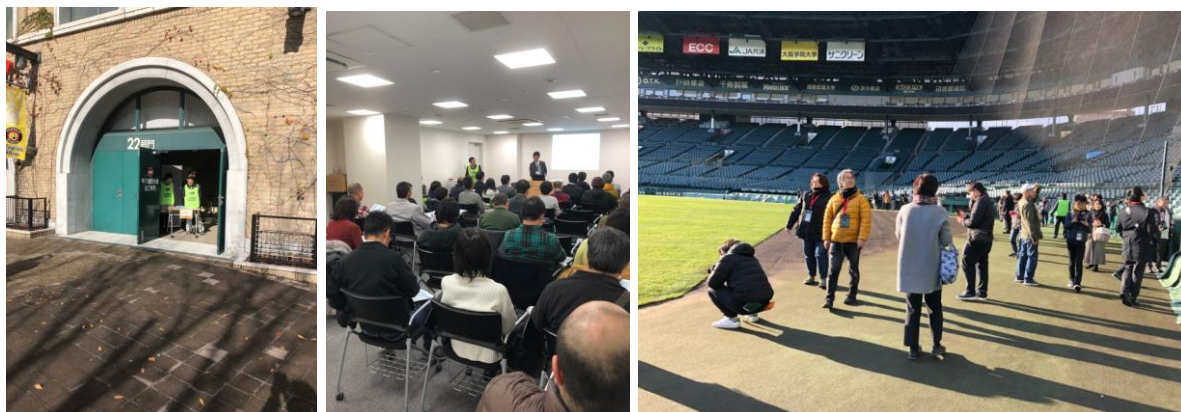


図4 ぶら・土木 25th 開催状況

## 3. 第5回サロンの開催

視察と意見交換を通じ、支部の「若手技術者交流サロン」については、次の示唆を得た。すなわち、(示唆1)土木学会ならではでかつ北海道に即した身近なテーマを設定する、(示唆2)幹事が機動的に動けない場合に備え事務局との連携を深め支援を仰ぐ、(示唆3)適切な規模の行事を継続して実施する、の各点である。この示唆をもとに、2018年度の若手技術者交流サロンは、学生自身のライフプランを考えてもらう(示唆1)こととし、同時期に開催する地盤工学会及び土木学会の支部主催研究発表会の協力をいただきつつ(示唆2)、前回と同様の規模でかつ現場見学会を前日に開催した(示唆3)。支部幹事らの試行により作成した用紙に現在から30年間までの自分自身と社会の出来事や技術の「未来予想図」を書かせるもので、事前に各自が記入し、当日ワークショップにて推敲した。参加者の7割が満足度に満点をつけた他、就職活動を控えた学生にとってタイムリーなテーマを提案できたことを把握した。一方で研究発表会と同時に開催する場合、運営支援、発表で参加が困難な学生がいることも把握した。次回以降の開催につなげる予定である。また、本報告の詳細は、土木学会年次学術講演会で発表を予定している<sup>2)</sup>。

表1 第5回若手技術者交流サロンの概要

| 項目  | 内容                       |
|-----|--------------------------|
| 参加者 | 学生15名(5大学;うち女性3名)、社会人14名 |
| テーマ | 「自分の未来予想図を描いてみよう」        |
| 主催  | 土木学会北海道支部 支部活性化WG        |
| 日時  | 2019年1月25日(金)～26日(土)     |
| 場所  | 苫小牧工業高等専門学校              |

<sup>2)</sup> 山田菊子, 松浦正典, 田口伸吾: 支部間交流による若手技術者交流サロンの改善への示唆と展望, 第74回土木学会年次学術講演会, 2019. (発表予定)